

江幡太瓏先生選評

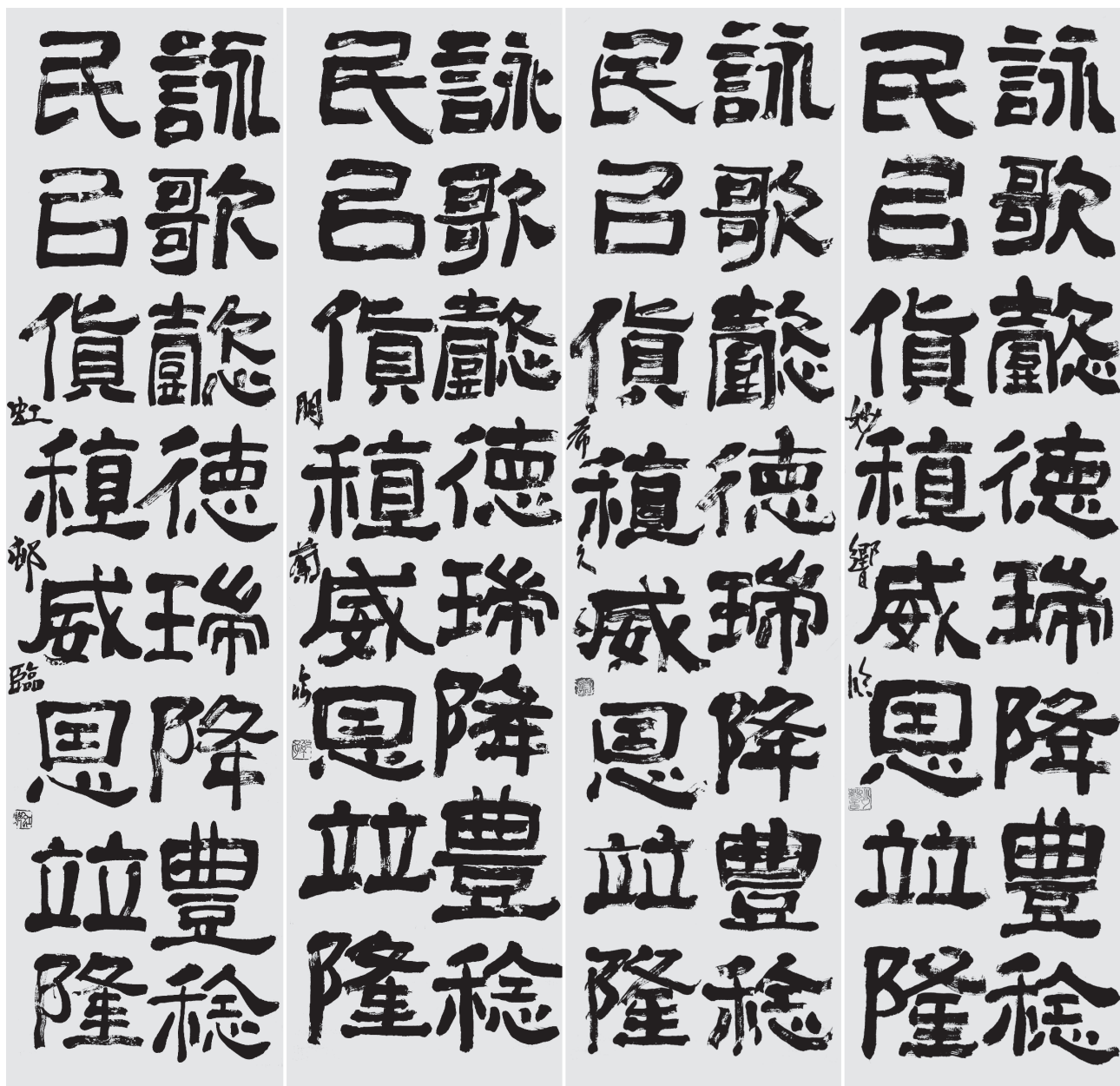


薬丸順子 推薦
淡墨、もう少し薄くても良かったか。滲みがもつと出たはず。湯筆が欲しい所だが、動きを抑えた字形で何とも言えない表情に魅力を感じます。

鈴木暉月 推薦
「とし身」でもっと筆の開閉を効かせて潤渇が欲しかったが、全体のバランスも良く本文一行なので両サイドの落款も元氣良くまとまっていると思います。

坂本千陽 推薦
墨つけの所で少し力入ったのかな？二つの「し」細く小さいのは気になりますが、いつもながら良いリズムで一気呵成の素晴らしい作品に仕上げましたね。

大竹百香 推薦
参考作品プラスご自分の章法を加え、筆の開閉、強弱、太細、動きお見事です。「すこし」の「し」があまりにも細すぎたのと、俳人名の字間もう少し開けたかったか。



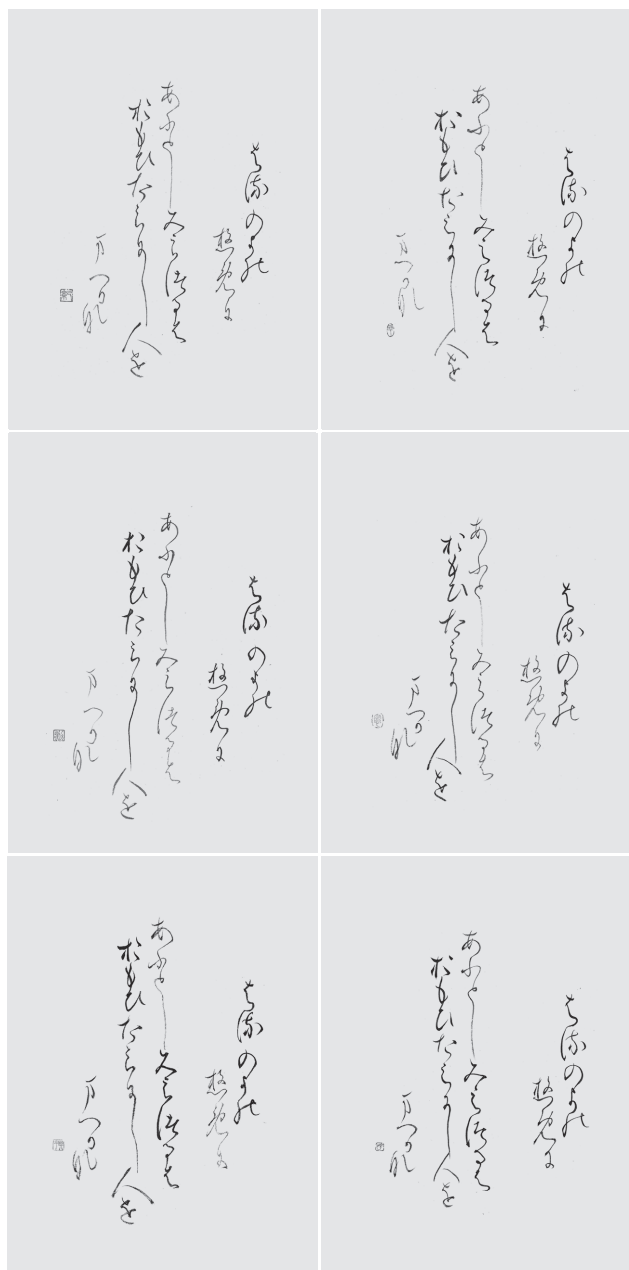
谷澤 妙響 推選
文字の内側の広さがい。大らかにゆったりと包み込まれる様な雰囲気の中に温もりが感じられる。章法も確実で安定感あり安心して見ていられる。落款ややかた。

早川 希久子 推選
柔らかい筆致で運筆に余裕がある。線の細太の変化を巧みに取り入れて強弱の配合により作品を立体的に仕上げて成功している。上四字が墨量少な目になった。

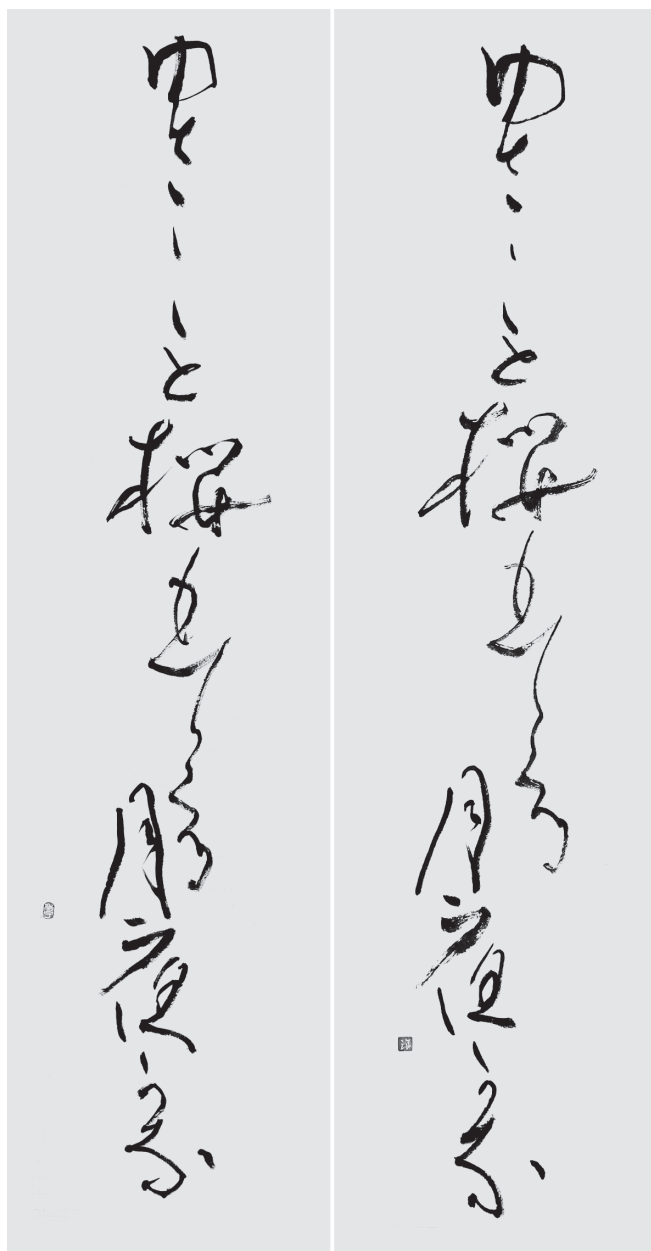
小熊 朋蘭 推選
円筆で向勢な結体の字形を上手くつかみ、伸びやかで朗らかなムードある作品になった。直筆の筆遣いを習得されており、線質は深く摩崖の雄大さが表現された。

町田 虹邨 推選
やや細目の線ながら筆の穂先を上手く活かして線を引かれており佳。筆毛の揺れが古拙の趣を醸し出して楽しく見せてくれる。隷書左払いの用筆を研究したい。

笠原博子先生選評



佐々木優子先生選評



福島 壽紀 準七
リズムミカルに気持ち良く筆が運ばれている。墨付からの後半は少しゆつくりと、その潤いのある豊かな筆線が表現できると、尚佳かつたかと。

御崎 勲城 準五
散らした各行の行間の取り方が的確で美しいです。少し連綿のリズムの崩れが気になりますが、墨の推移も自然で明るい作品になりました。

松山 典子 四段
原帖をよく見て、その特徴を一字一句ずつ丁寧に真摯に書写されている姿が窺え、好感が持てます。リズム良く線質暢びやか。やや墨量多かつた。

枝長 真美 師範
古筆の持つ連綿のリズムを小気味良くとくみ、引き締まった筆線は細めですが清々しく爽快です。特徴をしっかりと読み取る目の確かさが窺えます。

中森 憲子 師範
大らかで暢びやかな線条。太細の変化や潤渇の表現も的確です。古筆としつかり向き合い、且つご自身の表現も加味され、意欲を感じ作品です。

松下 晃子 準師
浮沈のきいたリズムが心地良い。墨色の美しさと潤渇表現と相俟って、余白に響き、彩を放っている。王朝の風雅な佇まいを感じます。

若松 浩子 推選
リズムに乗り手慣れた筆致での確にまとめています。渇筆部分がやや不足ながら運筆のリズムが歌っているかのようで、明るく魅力ある作品です。

広瀬 洋子 推選
運腕大きくかなの持つ流れの美しさを習熟され心地良いリズムに乗り書かれています。筆圧の変化が多様な線を生み、ゆったりと明るい余白の作品です。

藤田壽樹先生選評



藤川早苗 師範
九成宮の起筆や収筆、送筆部の特徴を見事に表現して素晴らしい。全体もバランス良く巧緻な印象。「於」の二画目は上部がもつと長く見える形に。

柳 朋子 五段
やや細身の線ながら直線を生かし、空間を大きく捉えた悠揚な作品で心惹かれた。難しいかも知れませんが、微妙な線の瘦肥の変化にも注目。

三谷菜穂子 準三
「至」はきりつと引き締まった鋭く厳しい表情を表出して説得力あり。比べて「於」はやや温和な感あつて惜しい。落款は今少し内側に寄せると良い。

林田粹蘭 初段
字形は勿論起筆や収筆、はね等隅々まで大変行届いた作品で完成度が高い。シャープで凛とした中にも潤潤さを感じさせる線と相俟つて魅力的。

奈良美鳳 二級
堂々と爽快な運筆は雄大な雰囲気醸して佳。特に「至」の最終横画は空間を良く支えて意気揚々と効いている。更に落款にも研ぎをかけて欲しい。

山口紗絵 四級
奇を衒わぬ気宇の大きい表現は立派。普段の真摯な臨書態度が窺え好感が持てる。落款は多少寂しい感じがする。研究を積んで頂きたい。

岡田龍華 師範
柔毛筆を駆使した豊かな表情と全体のバランスが大変良い。敦煌漢簡の特徴も良く捉えて美しく隙がない。素直な筆遣いも魅力で落款も見事。

尹 秀華 準師
墨量豊かな中に渴筆をうまく配した多彩な表現。紙面いつぱいに溢れる屈託のない雄々しく逞しい筆致はまさに達者と言える。脱帽の作です。

金子陽子 準八
古典の持つ躍動感を安定した運筆で巧みに捉えている。暢達した明るさの表出は何よりの財産だと思ふ。渴筆は運筆速度の変化を意識して欲しい。

田村美彩 準六
小さく太く濃密にリズム良く次へ次へと筆を運ぶ気分が心地良い作品。原帖や参考手本の核心を良く掴んでいる。落款はやや窮屈に感じる。

圖師杏子 三段
深く沈潜してどっしりとした趣の線で揺るぎない。筆の開き方の達者な方で、この古典の雰囲気を上手く出している。今後は渴筆の研究を望む。

但馬恵月 準初
蔵鋒の用筆にしっかりと取り組んだ充実感のある作品。そこから生まれる素朴で簡素な表情に真価を感じる。側筆による渴筆があると魅力を増す。